

平成 25 年度 公立保育所トップセミナー報告書

開催日：平成 26 年 2 月 21 日(金)

会 場：グランデはがくれ

主 催：佐賀県保育会

参加者：87 名

9：30 開会

研修 1 基調報告 佐賀県保育会 会長 田中豊博

保育所と新認定こども園の公定価格についての説明及び施設整備についての補助金、保育時間についての説明(8 時間を短時間保育 11 時間を長時間保育)

園長の資格

幼保連携型認定こども園の場合は保育所の所長だけの資格だけでは認定こども園の長にはなれない。今後は猶予期間や資格対象の基準を緩くして対応していく事も考えられる。詳しい内容はまだ決まっていない部分が多い。

保育資格

幼保連携型認定こども園の場合保育士資格しか持っていない人は 5 年間の間に幼稚園教諭の資格研修を受講し資格を取れば幼保連携型認定こども園で保育教諭として務める事ができる。またそれには、更新手続きも必要であることを述べた。今後は国の方も柔軟な対応を行うと思う。

保育の必要性の認定

虐待を受けている子どもも優先して入所できるようになる。育児休業についても現在は厳しいが、平成 27 年度以降は入所対象となるように進んでいる。幼保連携型認定こども園はしっかり国で守っていくようだ。園児定数が低数になっても小規模型として運営できるようにもなっている。

公定価格

いまだ見えていない部分が多いが、現在も内閣府の中で審議が行われている。量か質のどちらを優先するかが話し合われている。5 月の連携明けにはある程度見えてくるのでその段階で情報を公表したい。

佐賀県保育会も中央の発表に対して言わなければいけないことが発生した場合には、その活動を行い、その結果等を佐賀県保育会の皆様に報告していく。

10：00

研修 2 『就学前教育に夢とロマンを』

講師：子どもの学び館 代表取締役 福永 宅司 氏

1 部

人の話を聞く力の大事さ。読み聞かせを行う事の大切さ。読み聞かせにおいては、その声を聴いて子どもの心が癒されるし読んでいるほうも癒される。声の質が大事であり、しっとりした声で行う。話を聞かせるオーラを出すこと。学校教育においてはク

ラスを開いて3日が勝負であり何事も出だしが大切。

言葉のシャワーで左脳を育て勉強離れを防ぎ、子どもが興味をもって質問してきたときは快く答えてやる。書くのは小学校になってからでもよい。小学生になってから筆圧をつけるために鉛筆を使う事。子どもが大人になっても楽しめる良いものを読んで脳を活発にして感性を育てる。子ども達に経験させる場合は、なんでも最初が大事で、物の使い方や、やり方をしっかり教えて取り掛かること。

自尊感情の大事さ

現在の子供達は『自尊感情』が低く、大人の顔色を見て生活している。昔は近所の人たちと会話が自然にできていた。現在は、そのような環境が少なく、お互いの会話が少ないうえに会話における温かさが無い。会話における『言葉の宝』が現在は無く、ゆとりのある人間関係が形成されていない。叱咤激励のされ方も現在と昔とでは全然違う。『早くしなさい！』等大きな声で子どもに発言する親が多い。現在の子供は、他の子と比較され塾にも通わされ、子どもの心にゆとりがなくなっている。育てる親の環境で子どもの育ちが変わる。だから、園の生活においても保育内容を高める事が必要である。(叱咤激励も必要だが、誰にでも長所短所がある。長所を伸ばすようほめることも大事。) 親が子どもを誇りにしている内容の言葉を子どもにかけると、子どもは幸せを感じる。大人においてもそれは同じである。言葉には魂があり物にも魂がある。教育は言葉の使い方と態度の表し方で大きく変わる。根っこからすくすく育てるように心がける。自分を誇りに思っている人は心に余裕がある。自尊心と自尊感情は違う。お互いで満足できることの大切さを知る。子どもは、暗記したものを他人に教えることで自分の復習としている。

生活リズム

昔の子供は、縦割りの生活の中で育っていた。これ以上やったらいけないことを遊びの中で学んでいた。(外遊びの大事さ) 現代では、いじめのゲーム化が高学年になって行われている。今の子どもは、ごっこといじめの区別がついていない。また、いじめの発見ができていないことも多い。学校だけではなく塾にも通っているため睡眠時間が短くなり疲れたままの子どもが多い。早寝早起きが大事である。子どもの成長ホルモンは22時から2時までが一番活発に働く大事な時間。睡眠時は副交感神経(癒しの神経)が働く。(交感神経は活発な神経) 日本の学力平均点は諸国と比較しても高いが、2002年のゆとり教育で学力が落ちた。テストの点数でいうと、昔は中間の点数を取る生徒が多かったが、現在は、授業の理解度が二極化してきていて、テストの結果も二極化している。以前の日本は学力も高く、外国から教育現場の視察に見える数も多かった。これから大切なのは、平均点よりも最低点を公表することで見捨てられている子どもがいないようにする事だと考えている。朝ごはん前の脳は活発に働いている。早起きして勉強するのもよい事である。消化ができないまま就寝するのもよくないので、18時以降の食事もおくない。昔は体に対して良い時間に食事をする時代であった。いいものは昔からチョイスして取り入れ、今後取り組むべきである。ブドウ糖、炭水化物、タンパク質で生活していた時代はしっかり寝ていることもあり、脳が活発的に働き、学校の授業を集中して聞いており十分な学びができていた。食べ物にもこだわりが必要で食育も重要となっている。根っこ野菜を食することの大事さも忘れてはならない。

保護者対応

保護者と同じ土俵に立って話をせずコミュニケーション能力高め接する。周りから相手をされない保護者の中には、何回も同じことを聞いたりする人や、何回も通ってくる人もいらっしゃる。そのような場合は、いやな顔をせず、1対1ではなく保育園のチームで対応する。直接話ができるホットライト効果も大事である。年長児の保護者には、障害児の件で話す場合は十分に気を付け言葉を発すること。早く保護者に子どもの障害を理解させることが大事。保護者を支えながら対応する事も忘れてはいけない。

授業

一斉授業が必ず良いわけではなく、聞くだけ、書くだけで終わっている。佐賀県は子どもの力を育てるように児童が児童に教える時間を用いてお互いを伸ばしている学校がある。西川 純先生の『学びあう教室』『静かに！を言わない授業』

子育て世代を孤立させず、世代間や近所ぐるみで子どもの心身を育てていく事の大切さ、子どもの生活習慣の大事さを学んだ。



1 部終了

2 部

DV 事例を一人芝居で演じられる。虐待に対しては、それにかかわる人々が早期発見し、早期対応する事が大事である内容の芝居。



13:00

研修3 『発達障害児のみらいのために ～専門職に寄せる親の願い～』

講師；トークオフィス代表 岩川 義枝 氏

自閉症の子供たちのために バリアフリーを目指して (DVD) 上映

自分(講師)の子が自閉症と判定された時には涙が出た。その後、このことを理解し対応して育児を行ってきた。今現在、障害児の保護者になって13年目となる。



◎自閉症児の特徴

バイバイをする手の平と甲の向きが逆を向いている。

社会の理解がないと親の育て方が悪いと誤解される。

コミュニケーション能力が低い。

嫌いな音に敏感な反応を見せる(フラッシュバック症候群等)

自閉症症候群は現在 100 人に 1 人生まれている。

いつも長い時間同じ遊びしかしない。

何かについては特別に長けている。

気になるものしか見えない。他のものが視線に入ると気になってしょうがない。

椅子に座ってられない。

トイレの水をやたらと流したがる等の行動をとる。

親子でも意志が通じにくい。(特にコミュニケーションをとることが大切。)

壁伝いに公共施設内を歩く。(駅等)

ストレスがたまらないように生活させる。

同じものを集める習性がある。

回数を変えるとパニックになる。(例 1 回と言っていたのに 2 回行う事等)

自閉症は先天性の障害なので治ることはない。

養護学校では担任の先生が、視覚で見てわかるカードを使って対応している。使う物は施設でも家庭でも同じものを使う。生活の中で流れを見て理解させ、構造化させる。(目で見てわかるように整理する。) 時間の流れも目で見て理解させるように対処する事が必要。

働く場ではサポートをつけてもらい社会生活を送る。(社会での受け入れが求められている。)

喜怒哀楽を共に感じて生活することの大切さ。(様々な経験と受け入れが必要)

育児の中での自閉症の子供の母親の負担を減らすように、保護者間で互いに話せる場も必要。

自閉症の子供たちを周囲の人々や社会が理解をして受け入れることが求められている。

早期発見 早期療育 医師の診断と児童相談所に早めに判定をしてもらうことも大事。

パニックになった時の対処の仕方も十人十色である。小さなときから解るので早く保護者に理解させ対応してもらうことが大事。

OT 作業療法(部分的筋肉訓練) PT 理学療法 ST 言語聴覚のカリキュラムをこなす。

『発達障害の人たちをよろしくお願いします』というサポートブックを、自閉症をよく知ってもらうために発行した。個別計画書を担当が変わるたびに、次につないでいけるように作成し記入していった。

子どもは子どもで育つ(健常児とタックを組み係の役割をさせる等で成長する)

愛情表現として髪の毛を引っ張ったりすることもある。自分の意見をなかなか言えない。思い通りにならず困ることも多いが、周囲人々の理解で障害を持つ人の生活が明るくなることが考えられる。

就労支援を望む保護者が多い。

『なかよし学級に行くの?』と他の児童から言われた時よりも、身内から『この子どもするの?』と尋ねられた時が保護者はつらい。

自閉症の子どもに対する理解を学校だけでなく病院の医師や看護師等にも理解してもらいたい。

親への願い ～しあわせな大人になるために～

負けじゃんけんを会場の参加者全員で行う。

障害児の親となったことで障害児の他の保護者とのかかわりができた。保育園は障害児にとってとても大切な場所であり、今後も必要な施設である。保育所の障害児に対する理解にも感謝していると述べられた。

